

★今年台風24号の接近で気象天気図を見ながらの開催となりました。それでも29日(土)は晴れ間も出て通常のスケジュールで進められました。30日(日)については鎌田氏、佐藤氏が後泊をしてくれることになり開催することができました。静岡県以西県外の受講生は朝のうちに帰宅を促し、午後からは御前崎市以西の受講者に帰宅を促す対応を取りました。従って午後からの佐藤氏の講演が少ない来場者となってしまいましたが、それでも最後まで開催することができたことは本当に安堵しました。また、ご支援ご協力を賜りました助成金事業・補助金事業、後援市町他、協賛企業、講師、市職員、社協職員の各皆様には感謝申し上げます。そして、今年も避難所受入訓練では障がい者の皆様のご協力が何よりも嬉しく、受講者にとって経験のできない貴重な訓練になりましたこと深く感謝申し上げます。報告は写真と受講者のアンケートの一部を掲載させていただき報告書とさせていただきます。

【ご協力いただいた皆さま】

- ・講師 杉山徹氏 (静岡県危機情報課班長)
- ・講師 白井愛氏 (静岡県警本部災害対策課警部補)
- ・講師 野口智美氏 (おはな助産院助産師)
- ・講師 八幡隆司氏 (認定 NPO 法人ゆめ風基金事務局長)
- ・講師 明城徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク事務局長)
- ・講師 鎌田浩毅氏 (京都大学教授「科学の伝道師」)
- ・講師 佐藤敏郎氏 (大川小学校遺族：伝承の会)
- ・講師 永野海氏 (中央法律事務所弁護士)
- ・講師 小村隆史氏 (常葉大学社会環境学部准教授)
- ・グラレコ 緒方千裕氏 (常葉大学造形学部学生)
- ・グラレコ 山口日和市 (常葉大学造形学部学生)
- ・運営 御前崎市役所危機管理課・福祉課、御前崎市社会福祉協議会

【避難協力者】

- ・御前崎市身体障害者福社会
 - ・御前崎市手をつなぐ育成会
 - ・御前崎市精神福祉やすらぎ会
 - ・御前崎なみっ子の会
 - ・浜松市手をつなぐ育成会
- *勇気を持って参加していただき感謝申し上げます。

【参加受講者地区】

- ・御前崎市、掛川市、菊川市、袋井市、磐田市、浜松市、湖西市、森町、静岡市、吉田町、島田市、焼津市、藤枝市、川根本町、富士市、三島市、長泉町、清水町
- 三重県松阪市、岐阜県大垣市、岐阜県岐阜市、他 合計 85名

【参加人数・リーダー認定者人数】

・参加者	女性 64名	男性 21名	合計 85名
・認定者	女性 51名	男性 7名	合計 58名

☆魁リーダー認定者 (5回参加) ・吉田富美 (藤枝市)

◆1日目 9月29日(土)

☆1時限目「避難生活の手引き」について～発災から住まいの再建まで～

杉山徹氏(静岡県危機情報課班長)

- ・避難所に行かなくて済むような備えをすることが大事だと分かった。
- ・「脅す啓発」から「導く啓発」へと次のステップに充実させるということは共感できる。
- ・県の避難マニュアルも改定をしながらより必要な行動に寄り添う形になっているようで少し安心した。
- ・「発災から住まいの再建まで」という情報は初めて伺って避難の先が見通せて希望につながった。「多様な避難生活」により自分に合った避難を考える。
- ・避難生活でのちょっとした心づかいが必要だということを知りました。
- ・避難所生活の場合は自分たちで自主的に協力し合って楽しい生活を目標にする。



☆2時限目「防犯防災マニュアル「防災女子」赤のまもり青のまもり」

白井愛氏(静岡県警本部災害対策課警部補)



- ・大変苦勞なされてマニュアルを作られたので何かの講座の時に紹介したいと思います。
- ・女性の意見って大事だと思いました。シルバーのまもりがあることも知り有効に使ってほしいと思います。
- ・女性の立場で考えていることを知りました。金銀のまもりすごい！！
- ・「たすとひく」は覚えやすくて良かったです。

- ・女性ならではの目標で、声に出せない部分を助ける、気をつけることをコンパクトにまとめてあり男性にも理解してもらいたい情報だった。
- ・女性の警察の方がしっかり理解して対策していることはとても心強く安心です。

☆3時限目「避難所運営活動班と被災障がい者受け入れ説明」

落合美恵子氏(御前崎災害支援ネットワーク代表理事)

- ・目線を合わせる、後ろから声をかけないなど障がい者への接し方を知り、資料にもあって助かりました。
- ・実際に障がい者の方と話などさせていただいたことは良い経験になった。
- ・聴覚障がい者の方の課題として夜の発災時に補聴器を手でできなかった時の対応を話してくれた。
- ・自分たちで考え臨機応変に活動する。



☆4 時限目「避難所運営及び障がい者受入実践訓練」

《統括本部班》



- ニーズという言葉が分かり難かった。困りごと等分かりやすい言葉が良いのでは？
- 情報収集共有を如何にスムーズにするか？考えておくことが大事だと思う。
- 情報を解決するには市町、行政など対応をお願いすることになるのかな？と感じた。
- いい体験ができたが、自ら動くことができなかつたので次は気を付けたい。

《被災者管理・受付班》

- 被災者受付に QR コードの管理がスマホでできるのは良いが本番は？？？
- 初めて来られる方が最初に出会う所なので印象を悪くしないように心掛をした。
- 入口に大勢のスタッフが待ち構えていると怖いと感じるのではないかと思った。受付の隣に要配慮者班の方が並んでいたのでは通路がなかった。



《施設管理・防犯防火班》



- トイレの準備が大変でしたが、作成は避難訓練時全員作業が必要だと思う。
- トイレの組立はややこしい物よりサッと組み立てられる物が良いと思った。
- 色々な目線で見ることが大事だった。自分の住んでいる町では何が備えてあるのか知っておきたい。
- 段ボールベッドは良いが実際の時にどれだけ段ボールが準備できるのか？
- トイレは電気・消耗品の問題がある。

《情報班》

- 障がい者のニーズを聞き込んだ後のニーズの解決策についてすぐ出来ること出来ないことを割り振り、出来ないことは外部への展開を考えようと思う。
- 避難者のニーズについて他班との情報連携がうまくできなかった。
- 説明を伝えることが難しかった。



《保健・衛生班》



- 相談に来られたことを想定するとつい立てなどで目隠し又は個室のようなスペースの方が良かった。
- 役割としては健康チェックの他にもトイレやゴミの片づけなども仕事になるので大変な役割だと思う。
- 健康管理で血圧測定をしたが、皆さん健康に気を付けていると感じた。
- トイレ掃除など当番を決めるのが大事

《食料・物資班》

- 時間が短く大変だったが、りんごコンポートが美味しくできた。
- ポリ袋の耐熱温度は100℃で袋が鍋にくっついて破けてしまった。
- 味付けが薄かったもう少し濃くても良かったと思う。
- リーダーの説明で作業に取り掛かり、ピラフが美味しくできた。



《ボランティア受付班》



- 被災障がい者や家族の方への対応方法を少しだけ学べた。
- 初めての事で不安でお話をゆっくり聞くことはできたが、対応を考えることはできずボランティアについて勉強しなくては難しいと思った。
- ボランティア受付はニーズを受け付ける場所でもあることを説明した。人によっては人生相談にもなって楽しかったです。

《要配慮者班》

- コミュニケーションを取るのが難しい障がい者の方でした。帰りは手を振って帰ってもらい嬉しかった。
- 知的障がいの方でベッドやトイレを気に入ってくれた様子。ご自身で年齢も教えてくれた。
- 実際にやってみてお世話や気配りが大変でした。急がせてしまったことを反省。
- 見た目ではわからない、その人の障害をいち早く察し対応していくこと。



☆5時限目「避難所運営とスペシャルニーズについて」

八幡隆司氏（ゆめ風基金事務局長）



- 避難所で障がい者の方が苦労されているのが良く分かった。
- HUGとは違う避難所の運営を学べた。
- 障がい者の方は「お客様ではなく同じスタッフぐらいの気持ち」はとても大事だと分かった。
- 障がい者の方の福祉施設をいち早く開けることが大切だと知った。
- 一言に障がい者と言っても状況や程度によって対応がその都度違うので判断がとても難しいと思った。

- 「考えることは全て事前に考えておくこと」にはこれから地域で話し合う必要性を感じました。
- 避難所シミュレーションでは自分では考えつかない障がい者目線での意見が聞けて良かった。現実的な避難所運営シミュレーションだった。

《参加障がい者のアンケートから》*参加人数25名=回答20名（一部掲載）

☆今日の訓練で良かったことは？

（障がい者の避難所を考えている様子）

- 炊出し、食事などの配給
- 災害時のテントやトイレがあること、ビニール袋で色々な料理ができること。
- 昨年は2階まで行くのが精いっぱいだったが、ボランティアの方と手をつないで居られたこと、一緒に2階から1階へ移動できたこと、嘔吐しなかったことなどたくさん進歩が見られました。経験の積み重ねが大事だと感じました。
- 必ず来ることを考えての訓練だと思いますが、初めて参加させていただきスタッフの方が細心の案内で親も子も良い勉強になった。



☆災害の時にどんなことを助けてもらいたい？

- 人混みが苦手な怒ったりするので少し距離を置いて見守ってほしいです。
- 情報を早く知りたい。
- 家とか建物から助けてもらいたい。
- 地元の状況により何を求めるか難しいが、安全な場所に行けば食のことが第1です。
- 子供は親と離れられない状態なので何が必要か？常に状況を聞きとっていただく体制だと嬉しいです。（情報を取りに行ったり、食料配給をもらいに行ったり自由できないので）
- 話し相手になってくれたらうれしい。
- 皆さんから声をかけてもらったことが嬉しいと感じたので災害時に知らない人でも声をかけてほしい。

《障がい者の皆様参加していただきありがとうございました！》

◆ 2日目

☆ 1時限目「NPO等多様な主体による災害支援」

明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク JVOAD 事務局長）



- スフィア基準が日本は遅れていることを知り先進国なのにもっと政府も真剣に考えて欲しいと思った。
- 一言でボランティアと言っても色々な団体や個人、企業が共助して救援活動をするのだと知った。
- 御前崎市の地域防災計画で災害ボランティアに対して協力的な計画だと知って嬉しかった。
- 九州北部で情報会議にその市だけでなく近隣市、県、国、NPOなどが共有していることが大事だと思った。

☆ 2時限目：防災講演会第1部「富士山噴火と南海トラフ巨大地震」

鎌田浩毅氏（京都大学教授：科学の伝道師）

- これから陸で地震が増えその後南海トラフの地震が来ると知りビックリ！
- とても楽しい講演に引き込まれた。火山について理解度がアップした。
- 「過去は未来を解くカギ」という言葉が残り、その通りだなと思った。
- 伝え方が強く印象に残り、ファンションも素敵、見かけも大事だと感じた。
- 南海トラフ巨大地震が2035±5年に起こる、その前に地震がたくさん起きるとか私たちにできることは減災するために備えたりネットワークを作るなど。
- 富士山と南海トラフ巨大地震の密接な関係が良く理解できた、出来るだけ備えたい。



☆ 3時限目：防災講演会第2部「3・11を学びに変える」

佐藤敏郎氏（大川小学校遺族：伝承の会）



- 行動が命を救う、防災は「ただいま」を言うこと、当たり前にしていきたい。
- 命のためのギア、救えるはずだった命生々しいその時の様子が思い浮かび語り部はとても大事だと思った。
- この教訓を生かしていかななくてはならないこと、語り部さんに感謝したい。
- 涙が止まりませんでした。娘さんを失いながら一生懸命話をしてくれて感謝しかありません。生かさなきゃ！

- 「念のためのギア」を迷わず入れて自分や家族の命を守りたいと強く感じた。
- 手をつないで海を見ている絵が印象に残り、子供の命の尊さを伝えていきたい。

☆4 時限目「われわれは大川小学校控訴審判決から何を学ぶべきか」

永野海氏（中央法律事務所弁護士）

- ・子供たちは今の教師の言うことは絶対！だからマニュアルも大事だけどその場の判断と行動が本当に重要と感じた
- ・「児童は全面的に教員の判断にゆだねざるを得ない」という教育機関、学校の責任がはっきり示され、次につながる判決文という説明に感動しました。
- ・ハザードマップは役に立たないと聞いていたがその理由がはっきりした。
- ・会社、地域の組織であり何か起きた時上の判断を待つ状況がある、でも個人で判断する重要性を感じた。
- ・背景、現場、根拠などがあっての判決、自分なりに考える機会をもらった。



☆5 時限目「パネルディスカッション」

小村隆史氏（常葉大学社会環境学部准教授）：コーディネーター



- ・子供たちには防災教育をしていきたい。自分で考え行動できる子供を育てていく。
- ・①避難マニュアルを見直す②使命感に基づく意思決定を行う組織を作る。
- ・責任から解放をまず考える大人の教育現場が現実。命を守ることを考える社会に！
- ・親は大切な子共を預けているのです。教師の意識を変えていただきたい。
- ・俺たちが如何に子供たちと輝くか！子供たちの短歌前向きになる言葉が良かった。
- ・教訓を生かせない私たちが情けない、防災と経済、自然と災害との向き合い方。



《グラフィックレコーディング》

避難所運営及び被災障がい者受入実践訓練 H30.9.29 女性のための防災・減災リテラシー養成講座 in 信濃公民館

1 被災者管理班 2 要配慮者班 3 ボランティア受付班 4 防火・防火班 5 保健班 6 施設管理班 7 運営班 8 情報班 9 食料班

QRコード配布 名前確認
 被災者管理班: QRコード配布、名前確認、被災者管理、避難所運営、要配慮者受入、ボランティア受付、防火・防火、保健、施設管理、運営、情報、食料

防火・防火班: 防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班、防火・防火班

保健班: 血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置、血圧測定機設置

施設管理班: 施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班、施設管理班

運営班: 運営班、運営班、運営班、運営班、運営班、運営班、運営班、運営班、運営班、運営班

情報班: 情報班、情報班、情報班、情報班、情報班、情報班、情報班、情報班、情報班、情報班

食料班: 食料班、食料班、食料班、食料班、食料班、食料班、食料班、食料班、食料班、食料班

NPO等多様な主体による災害支援

NGO: 東日本大震災... 経験を活かして、被災者支援、行政・企業との連携、市民(NGO)との連携

JVOAD: 企業行政、NGOの連携促進と支援の調整を行うネットワーク

ボランピア: 災害時のボランティア受け付け、被災者支援、行政・企業との連携

行政・企業・市民(NGO)の連携の重要性

災害時の連携の重要性

協力を災害支援を!

避難所運営とスペシャルニーズについて H30.9.29

被災障がい者の支援を考える

1 東日本大震災: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

2 被災者障がい者の支援が困難: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

3 避難所運営: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

4 福祉支援: 福祉支援、被災者支援、要配慮者受入

5 合理的配慮: 合理的配慮、被災者支援、要配慮者受入

6 障がい者の権利の確保: 障がい者の権利の確保、被災者支援、要配慮者受入

ハチノミヤ 中野国基

避難所運営とスペシャルニーズについて

被災障がい者の支援を考える

1 東日本大震災: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

2 被災者障がい者の支援が困難: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

3 避難所運営: 避難所運営、被災者支援、要配慮者受入

4 福祉支援: 福祉支援、被災者支援、要配慮者受入

5 合理的配慮: 合理的配慮、被災者支援、要配慮者受入

6 障がい者の権利の確保: 障がい者の権利の確保、被災者支援、要配慮者受入

われわれは大川小学校控訴審判決から 何を学ぶべきか?



- 地震発生
- 校庭に避難
 - 下校中の生徒
 - 真山へ逃げた生徒
 - 全員校庭へ
- 防災無線
 - 教頭が正長へ山へ避難する人の情報を求める
- 消防車からサイレン
 - 保護者への避難誘導の情報が伝わる
- 広報車からの呼びかけ
 - 呼びかけを聞いた職員がどうするのか教頭に聞かせる
- 津波到達
 - 水面は2階建て校舎の屋根の高さまで達し、校舎と体育館は全壊

第一審 (仙台地裁判決)

1つ目の争点
地震発生前の段階で災害マニュアルも津波も想定内容に盛り込まれていない

2つ目の争点
津波到達1分前までに避難は出来たこと

地震の発生
地震前の段階では津波被害は予測不可能だった
マニュアル改訂はマニュアルに過ぎない

地震の発生
避難方法は過失あり

なぜあの時避難しなかったのかを責めるのではなく

↓
なぜ、事前に備えておかなかったのか

裁判所

それを議論して

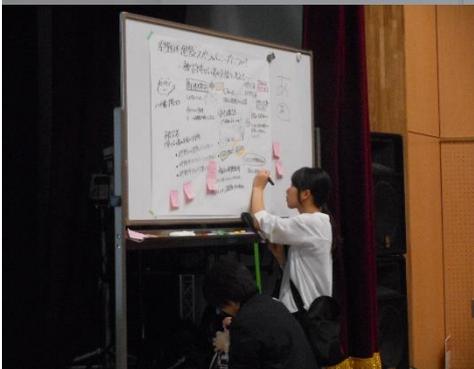
・事前の避難訓練

・備品の準備など

被害にあつたのは、大川小学校ではない。
バザーで遊園地へ、住民も仕方なく避難

レベルの高い判断が必要だった
現場判断ができていなかった
是物を超えてはいても予測すべきだった

山以外はずっと浸水
バス停のそばにあって場所が被害がなかった
ここで信用するべきか



「3.11を学びに変える」～大川小学校の津波被害の教訓を生かすために～

2011年3月11日(金)14時46分28秒
東北地方太平洋沖地震発生

- ・変わらぬ正統
- ・いたる所へ
- ・信じられない

5月 俳句の授業を頼まれる



- ・この状況でも言葉はしているか
- ・子供たちを苦しめるのは

- ・予想に驚いて授業中
- ・今の状況を子供達は受け取っている

子ども達は次へと向かっていく

同じことはくり返してはいけない!

- ・小川の塞ぎ止め
- ・避難訓練の変化



地球と文通することが防災
敵対することはない



40分
あった

みんな
言葉をうしろな
っていた

言葉にした

74名が犠牲

教員と生徒が一括に被害に合つたのは(初)
70人の生徒11人の先生

15:36 移動

この1分間に
向き合う

15:37 津波到達

且かかる手段は全員が知っていた
警報は全員にいきわたっていた

救うことが
できた命

救った命

仕方がなかったことにしない

お父さんが
あの日の先生
あの日の親



後回しや他人任せ

後小海

救う条件

= 時間・情報・手段

↓
判断・行動に

下川海校

組織として意思決定できる!!
避難ルートミス

念のためのギア

念のために逃げる

本音が生かせる意味
後輩には何をするか



東北の言川練を全国に生かす

防災とは

「信じて」と

必ず言う、言いたい家

を作ること



《事務局》

〒437-1612 静岡県御前崎市池新田5408-1

TEL/FAX 0537-86-2053

E-MAIL omaezaki-dsnet@shore.ocn.ne.jp

URL <http://omaezaki-dsn.net/>